

長野県南信地域におけるトンネルを生かした インフラツーリズムの取り組み

湯上 公基

元 飯田国道事務所 計画課 (〒395-0024 長野県飯田市東栄町3350)

現 設楽ダム工事事務所 調査課 (〒441-2301 愛知県北設楽郡設楽町田口宇川原田1-2)

近年，社会資本の役割や重要さを知っていただくため，普段入ることのできない工事現場やダムなどの施設を見学できるインフラツーリズムが各地で実施されている．飯田国道事務所においても，管轄する各現場を見学・体験する機会を提供することで，社会資本整備の重要性に対する理解を深めてもらうことを目的とし，旅行会社と連携してインフラツーリズムに取り組んでいる．今回，飯田国道事務所におけるこれまでのインフラツーリズムの取り組みと，実施結果から見える課題について発表する．

キーワード 現場見学，地域活性化，青崩峠トンネル

1. はじめに

(1) インフラツーリズムとは

インフラツーリズムとは，通常は立ち入ることのできない工事現場等の見学機会を創出することで，直轄事業の認知向上および社会資本の役割や重要性の周知を図ることを目的とした現場見学である．また，近隣の観光施設等をツアーに取り組むことにより，地域経済の振興にも寄与することを目的としている．さらに，通常の現場見学与異なり，参加者は県外からの来訪者を主な対象とし，広域的な事業認知の向上に努めている．



写真-1 過去の旬な現場見学の様子

(2) インフラツーリズムの実施背景

これまで飯田国道事務所では，旬な現場見学の実施に加え，団体からの電話による現場見学の申込みや地元住民からの参加申込みを受け付け，現場見学を実施してきた．これらの現場見学による反応は概ね良好であり，特に旬な現場においては事前予約が早期に埋まるケースも多く見られた．一方で，参加者の多くは地元住民であり，20名程度の見学会においても県外からの参加者は1～2名程度にとどまる状況であり，広域的な周知へ至っていないという課題があった．要因の一つとして，事務所SNSで現場の紹介や募集についての投稿が少なかったことが挙げられる．こうした状況を踏まえ，県外の一般の方々にも飯田国道事務所が実施する事業への理解やその重要性を知ってもらうため，インフラツーリズムに取り組むこととした．

2. インフラツーリズムの取り組み

(1) インフラツーリズムの目的・効果

飯田国道事務所のインフラツーリズムの推進に向け，地元の観光公社に対して事業内容の紹介を行い，旅行会社のツアーとして取り扱っていただくことで，事業の認知度向上を図ることとした．旅行会社で取り扱っていただくことにより，県外の一般の方々に対する訴求が可能となり，広域的な事業認知の向上が期待される．また，実際に現場見学を実施することで，見学地周辺の観光施設への立ち寄りを促し，回遊性の向上および消費の拡大といった地域経済への波及効果も見込まれる．

(2) 旅行会社との取り組み

事務所内においてインフラツーリズムの実施時期および対象現場の目途を整理した上で、観光公社へ実施予定を共有する。観光公社は年に数回、飯田下伊那地域の観光資源について主要都市の大手旅行会社へ営業を行っている。そこへ飯田国道事務所が営業資料の作成などに協力し、観光資源の一つとして飯田国道事務所の現場見学を含めていただいた。そして、興味を持った旅行会社より問い合わせを受け、日程調整やツアー行程について観光公社を窓口として調整を行った。

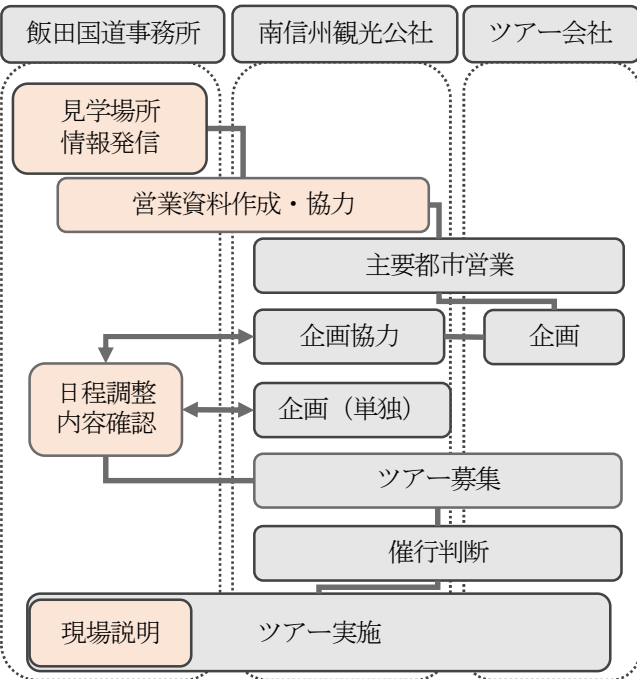


図-1 インフラツーリズム実施フロー

3. 開催実績

(1) これまでの実施内容

飯田国道事務所では、2026年5月までに計6回のインフラツーリズムを開催している。その内訳として、青崩峠道路における実施が5回、飯喬道路3工区における実施が1回、飯田南バイパスにおける実施が1回となっている。

実施日	ツアー会社	見学場所	参加人数
R6. 9. 19	南信州観光公社	青崩峠道路	24
R7. 3. 29	南信州観光公社	飯田南BP	8
R7. 11. 19	南信州観光公社	青崩峠道路 飯喬道路	24
R8. 1. 15	クラブツーリズム	青崩峠道路	20
R8. 2. 18	クラブツーリズム	青崩峠道路	15
R8. 5. 29	JTB	青崩峠道路	10

表-1 ツアー開催状況

青崩峠トンネルの見学では、前半に座学による事業概要や施工内容の説明を行い、後半にトンネル内へ移動して現地での説明を実施した。

また、飯喬道路においては、今後開通予定である飯喬道路3工区の道路見学を行うなど、今後の整備状況について理解を深める内容として実施した。



写真-2 青崩峠トンネル内の現場見学

(2) ツアーの実施内容

2025年2月に実施したインフラツーリズムについては、旅行会社であるクラブツーリズムのツアーの一部として、青崩峠トンネルの現場見学を実施した。ツアーの募集は開催の6か月前から行われ、旅行会社が設定する最少催行人数を満たした場合にツアーが催行される仕組みとなっている。

また、当日のスケジュールや見学内容については、観光公社を通じて旅行会社へ共有されており、旅行会社が作成するツアー行程の中に現場見学が組み込まれる形でインフラツーリズムを実施している。なお、青崩峠トンネルの現場見学は約2時間程度で実施した。

ツアー行程表		
7:40発		名古屋駅
	190分	移動
11:00 ～ 12:40		青崩峠トンネル
	40分	移動(昼食も込み) (道の駅で昼食)
13:20 ～ 15:20		旧国鉄中津川線跡
	180分	移動
18:20		名古屋駅

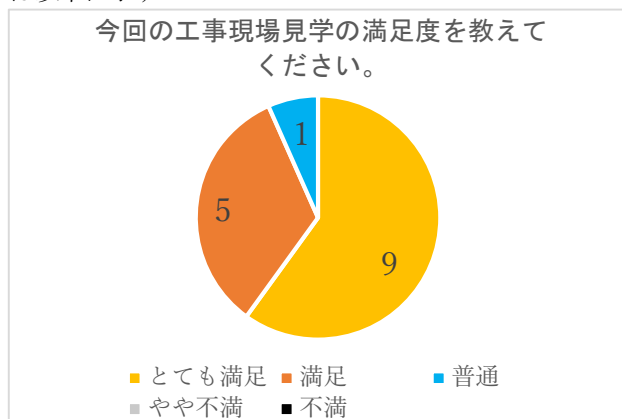
表-2 ツアーの行程表



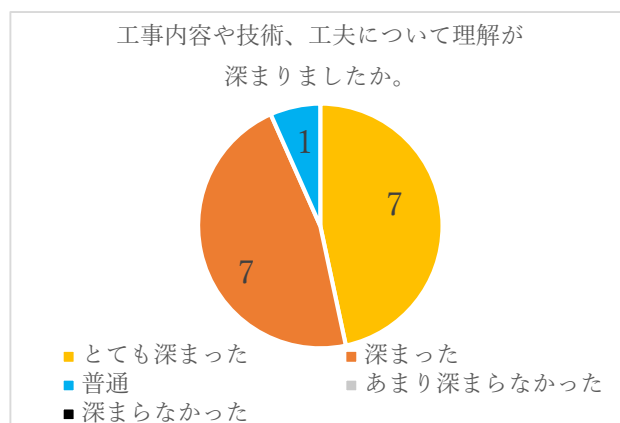
写真-3 担当者による説明

(3) アンケート調査結果

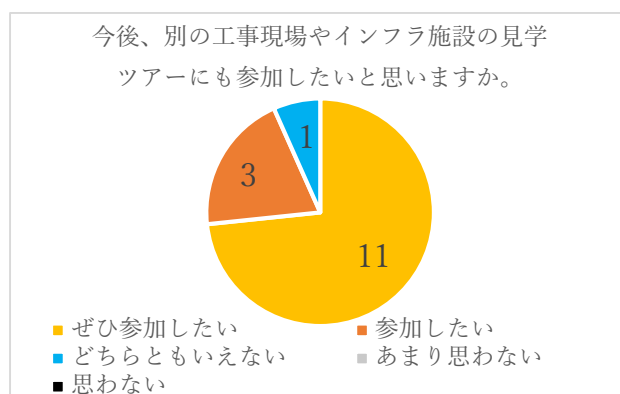
インフラツーリズム終了後、見学者に感想等伺うアンケート調査を実施した。アンケート結果や意見については以下に示す。



グラフ-1 満足度について



グラフ-2 理解度について



グラフ-3 今後の参加について

いくつかのアンケートに答えていただいたが、高評価を多くいただくことができ、低評価については0件だった。感想についても「説明が分かりやすかった」、「今後の進展に興味が出てきた」等評価を得ることができた。

また、参加者が今回15名参加されているが、愛知県、三重県、大阪府と全員が県外からの参加者であった。ツアー会社が抱える客層によっても変化するだろうが、県外の方へ事業の周知を行うというインフラツーリズムの目的は達成したといえる。

(4) 今後の課題

上記のとおり、アンケート結果から全体的に高い評価を得ていることが確認できた。一方で、改善点として、見学会参加者から飯田国道事務所のSNSによる情報発信が不足しているとの指摘や、参加者が持ち帰ることのできるパンフレット等の準備を求める意見があり、今後対応すべき課題を把握することができた。

また、青崩峠トンネルの座学についても参加者からの質問に対して十分に回答できなかった場面もあった。このため、今後は想定される質問への対応力向上に向けて知識の習得に努め、より充実した説明が行えるよう取り組んでいく必要がある。

4. おわりに

(1) 今後の取り組み

今回インフラツーリズムの取り組みを行い、想定以上に現場見学をツアーに組み込むインフラツーリズムの需要が高いことが分かった。しかし、開催回数が限られていることもあり、広域的な周知が十分に図れていない状況にある。このため、今後はSNSの活用をこれまで以上に積極的に行い、多くの人に取り組みを認知してもらうことが必要であると考えている。また、SNSに加え、飯田国道事務所のホームページにおいても、旅行会社に向けたインフラツーリズム募集・情報発信を行い、さらなる参加機会の創出を図る。さらに、一般の参加者だけでなく、他の観光公社や旅行会社等を対象とした現場見学会を開催することで、関係者との連携強化を図り、業界を通じた事業認知度の向上にも取り組んでいく。

(2) まとめ

現場見学については、一部の関心の高い層（コア層）のニーズに応える取り組みではあるが、近年の旅行形態が大人数の団体旅行から、少人数でテーマ性を重視したツアーへと変化している傾向とも合致している。

また、飯田国道事務所としても、開通前の段階から地域外からの来訪者を呼び込むことにより、地域経済の振興につながる取り組みであり、地域にとっても大きな効果が期待できる。

さらに、インフラツーリズムの取り組みは特定の現場に限らず、さまざまな事業現場で実施可能であることから、今後は他の現場や他事務所においても展開され、取り組みの拡大が図られることが期待される。

これらの取り組みを通じて、インフラツーリズムの周知を一層推進し、事業に対する国民の理解促進に努めていきたい。あわせて、現場での説明についても担当職員クラスにおいて対応できる体制を準備し、事務所全体でインフラツーリズムに取り組む体制の構築を進めていく。